

EU 支部長：松原真実子 MATSUBARA Mamiko

青森県八戸市出身 国際文化研究専攻修了 修士論文『異文化間コミュニケーションの研究—フィードバック作用—』

e-mail: leoshironeko@yahoo.co.jp



この号の内容

1 世界で最も家事に協力的な男性は…

2 EU 支部だより

—日・EU 協力のための

行動計画—

世界で最も家事に協力的な男性は…

【3月6日 ロイター】 経済協力開発機構（OECD）が3月8日の国際女性デーを前に発表した調査によると、世界で「最も家事に協力的」な男性はノルウェー人で、「最も協力的でない」のは日本人との結果が得られた。

OECDは加盟34カ国の大方を対象に成人の男女それぞれが家事や買い物、雑用などの「無償労働」に費やす時間に関する統計を比較。「キャリアを持つ女性が増えており、男女間の差は徐々に縮まりつつある」とする一方、依然として大きな差があり、一部の国では男性の家事協力が、なお難しいことが明らかになったとしている。

調査では、トルコの女性が家事に費やす時間が最も多く1日当たり377分。一方、同国の男性は同116分だった。日本は、男性が1日当たり62分なのに対し、女性は300分近くを家事に費やしている。ノルウェーの男性は180分と男性の中でトップだったが、同国の女性は210分を家事に充てている。

OECDの調査は、約2万人を対象にした2005年以降の各国の時間の使い方に関する調査から入手したデータに基づいている。

・無償労働: 男性	1日当たり
・ノルウェー	180分
・トルコ	116分
・日本	62分

EU支部だより —日・EU 協力のための行動計画—

平成26年3月男女共同参画を推進するためのポスター用キャッチフレーズの公募があった。昨年は「紅一点じゃ、足りない」と、女性の立場からと思われるフレーズだった。そのため今度は、男性の立場からのフレーズを私なりに考案。応募させてもらった。結果はもう少し先だが、この時、日本と世界、特にEUとの男女共同参画の推進に向けた計画があるのか気になった。以下に、日本・EU協力のための行動計画について記す。

以下男女共同参画ホームページによると「平成13年12月8日第10回、日・EU首脳協議がベルギーのブラッセルにおいて、我が国からは内閣総理大臣、EU側からは欧州理事会議長（ベルギー首相）他が出席の上開催された。本首脳協議において、今後10年の日・EU協力の指針となる「日・EU協力のための行動計画」が採択された。「日・EU協力のための行動計画」では、4つの重点目標のうち「地球規模の問題及び社会的課題への挑戦」において「男女共同参画」が具体的な措置として初めて盛り込まれた。追及すべき措置としては、日・EUは、両性に十分かつ均等な機会を確保する目的で、我々の社会において、また国際社会において、男女共同参画を推進するために協力する。これには以下の行動が含まれる。・男女共同参画の視点を主流化することに重点を置いて国内及び国際レベルの全ての政策にその視点を取り入れること・政策立案者と専門家間の対話・関係機関等の間での専門的知識の定期的交換・「男女共同参画」の施策の評価・監視方法の比較・国際協力の全ての分野、例えば国連政策開発協力、貧困撲滅及び人権尊重の分野において、男女共同参画を推進すること。」と記載されている。

日本とEUでは男女共同の捉え方も意識も異なる。そんな中で、日本ブームに沸くEU諸国とイタリアブームにも代表される日本とEUとの関係において、双方新たな男女共同の捉え方や意識がどのように育っていくのか、今後、協力体制の事例および結果について調査していきたい。

「イタリアはあまりにも自由になり過ぎた。だからこそ日本文化の武士道に憧れる。」と人気漫画「るろうに剣士」を読んでいた若者の言葉を、私は今も思い出す。（松原）



- ・男女共同参画の促進
- ・キャッチフレーズ公募
- ・貧困撲滅
- ・人権尊重